



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

2019.12.10 Vol.162

三蔵五訓

真理を探究し,道理を实践する。
 豊かな品性を養い,不屈の魂を育てる。
 生命を尊重し,自然を畏敬する。
 個性を伸展し,紐帯性を培う。
 未来を志向し,可能性に挑む。



2020年12月末竣工予定『未来創造館』

揺るぎなく前進！

トピックス	1
第45回 三蔵祭	5
地域連携活動	7
国際交流瓦版	9
学友会短信	10
頑張る福大生	11
後援会情報	15
入試広報室から	15



福山大学イメージキャラクター
「ふくりん」

第5回 福山大学研究成果発表会を開催！

2019年度 第5回福山大学研究成果発表会「明日への希望と未来創造人を育む教育・研究」が、令和元年6月26日（水）に福山市ものづくり交流館において開催されました。この研究成果発表会は、全5学部14学科、大学院4研究科及び研究センター等の教員が行った研究の成果を備後圏域等の企業及び高校生や地域住民の皆様方へご紹介するとともに、産学官金民等によるマッチング交流等を目的とする福山大学教員による研究成果の発表会で、前半の特別講演会と後半の研究成果ポスターセッションに分けられています。

前半の特別講演会は、都祭弘幸社会連携センター長の司会によって開会し、講演に先立って松田文字学長より、福山大学の研究成果発表会は、株式会社広島銀行と福山大学とで包括協定を結び、同年の第2回研究成果発表会以降、協力して地域活性化に貢献するために、今回まで4回目の継続企画であることや、現在の日本は国全体が少子超高齢化、人口減少、労働人口減少などの課題に直面しており、地方の置かれた厳しい状況下において、この備後地域における唯一の総合大学である福山大学は、何を成すべきなのか、地域から学び、地域に貢献し、それを通じて将来もそれぞれの地域から国際社会につながって行き、地域の未来をつくっていく「未来創造人」に学生を育てたいと努力していることや、研究面では備後地域の産学官民連携に基づいた研究ブランディング事業「瀬戸内の里山・里海学」を立ち上げて4年目に入り、持続可能な地域づくりに向けて教員も学生も様々な角度から精力的に取り組んでいることなどの挨拶がありました。

松田学長の挨拶に続いて特別講演会が2演題行われました。最初の講演者は、一般財団法人ひろぎん経済研究所 理事 経済調査部長 河野 晋氏で、「創業支援の現況と課題～地方発ベンチャーの創出に向けて～」と題しての講演でした。ひろぎん経済研究所は2年前から広島経済同友会にある創業支援委員会の事務局を任務されており、創業間もない企業や大学とのコラボレーションやPRイベントなど様々な活動を行われています。創業・起業を取り巻く環境は、三大都市圏の中で特に東京圏の一極集中への歯止めを掛けるために、魅力的な雇用の場を地方に創出して地元で働ける環境を創り出すことが重要とされ、創業・起業の創出が徐々に高まる傾向にある。また、県内各市町と広島県の連携、スタートアップや起業を目指す人が利用する施設の集約、創業経験者が創業者を支援する仕組みづくり、大学発ベンチャー創出に向けた産学官連携の4つの提言等の説明でした。

次の講演者は、福山大学生命工学部生物工学科 佐藤 淳准教授で、「多島海に学ぶ里山・里海学と私たちの未来」～福山大学ブランディング推進研究「瀬戸内の里山・里海学」より～と題して、福山大学ブランディング研究についての講演でした。

佐藤准教授は、地球環境の視点から見て生物多様性の損失

が解決すべき喫緊の課題であること、里山と里海がその複合的な生態系から「豊かな生物多様性」を有し、上記の問題解決に有望な概念であること、瀬戸内地域の中央に存在する福山は全国的にも、里山と里海と呼ぶべき地域が多く、これらを研究・教育に利用する上で非常に良い立地条件を持っていることを説明しました。さらに、森の生態系が、海の生態系の持続可能性に関与しているのではないかとという仮説を検証するための、森を代表するネズミであるアカネズミの食性分析を通じた生態系の解明、環境DNA分析の可能性などを紹介し、「しまなみ沿岸生態系」を持続可能にするための手法を考え、そこから生み出される里海資源を使って地方中核都市の魅力を上向きさせて地域への貢献を行いたい等の説明でした。

後半の研究成果ポスターセッションは61題で、発表者は聴講者に、研究までの背景や研究の目的、その目的を達成するための方法、研究で得られた成果とその応用事例、更には研究内容に関連する共同研究や受託研究の可能性等を分かり易く説明するとともに、発表教員間では学部・学科を超えた意見交換も行われました。

研究成果発表会への来場者数は、特別講演会が約90名、研究成果ポスターセッションが約150名で、盛況のうちに閉会できました。

社会連携センター 助教 中村 雅樹



「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～ 地域人材コース」に学生が採択され留学！

福山と海外を繋ぐ様々な経験を通じ、グローバルな視野で地域の活性化に貢献したい……。

そんな意欲ある学生を対象に、福山市が今年度から開始した「ふくやまグローバル人材育成事業」では、海外留学と地元企業でのインターンシップを組み合わせた「福山市トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～地域人材コース」という産学官が連携して実施するプログラムに、本学から5人の学生が採択されました。（全体で10名）

今回の募集枠10名程度という狭き門を潜り抜けて採択された学生及びテーマ並びに留学先は、下記のとおりです。



学部	学科	氏名	留学テーマ	留学先
経済学部	経済学科	森川 貴博	福山におけるスポーツツーリズム産業の新たな可能性	アメリカ シンガポール
経済学部	国際経済学科	宮本 瑞樹	アメリカで学ぶ親教育と子育て支援	ブルガリア
経済学部	国際経済学科	地代 悠馬	サンフランシスコでリノベーションボランティア	アメリカ
人間文化学部	人間文化学科	柏原 大空	福山のバラを日本、世界に発信	アメリカ
生命工学部	海洋生物科学科	中荒井李華	海に学ぶ！自然のすばらしさ、環境の大切さとブルーエコノミー	アメリカ

ここで、まず簡単に「福山市トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～地域人材コース」についての概要を説明します。

この事業は、地域の活性化に貢献し、地域に定着するグローバル人材の育成を目的に、福山市出身の大学生と福山市に立地する大学に在籍する学生を対象に、2018年度から開始されました。

このプログラムでは、学生自らが留学の期間を含めた留学計画を企画・立案します。そして、厳しい審査を経て採択された学生には、主に地元企業からの寄附金による奨学金・授業料・渡航費が支給されます。最も大きな特徴としては、学生たちが地域や企業が抱える課題を整理できるよう留学前に地元企業でインターンシップを行い、留学後はその経験を活かした課題解決提案等を行うという点です。

福山大学のこれまでの国際交流の取り組みをベースに、コーディネーターである経済学部国際経済学科の足立浩一教授をはじめ、各教員が海外協定大学や企業に協力を要請し、学生たちは将来のキャリアを描きながらプログラムを立案しました。産学官が連携して行うからこそ可能となるこのプログラムによって、学生たち

はより実践的な学びや経験を得ることができます。そして、採択された学生たちには卒業後、福山市と国際社会を繋ぐ役割を担う人材として、地域においてリーダーシップを發揮していくことが期待されています。

つまり、グローバル志向を持つ学生とグローバル志向の強い地元企業を結びつける、学生の意向と企業のニーズを踏まえた海外留学プログラムということです。留学計画を自ら企画・立案するだけでなく、企業でのインターンシップや地元の課題解決提案など、学生の皆さんにとっては非常にハードルの高い挑戦になると思います。

しかし、このプログラムを通して得られる経験は、学生の皆さんにとっては一生の財産になると同時に、地域社会にとっても大きな力となります。

皆さんが将来、地域の中核となって活躍する姿を見るのが今から楽しみです。頑張ってください。

総務部 企画・文書課



福山バラの酵母の研究から 新たなパン種の開発と全国展開まで！

福山市はバラを市の花に選定しており、「100万本のばらのまち」のかけ声の下、市民のバラへの愛着も高い都市です。毎年5月にはバラをテーマとした「福山ばら祭り」が開催され、さまざまなイベントに市内外から多くの方々を訪れます。2024年には、世界バラ会議が福山市で開催されることが決まっております、世界中からバラの愛好家や育種家などが集まります。

さて、福山大学生命工学部生物工学科の分子生物学研究室（久富泰資教授）では、2013年から地域活性化を目指した産学官連携のプロジェクト（福山バラの酵母プロジェクト）を開始しました。これは、福山大学と福山市との包括協定の目玉の一つでもあります。2013年から開始した福山バラの酵母プロジェクトでは、福山市の園芸センターで栽培されたバラを採取し、そこに生息している野生の酵母を分離して、その遺伝学的特性や発酵力などをつぶさに解析していきました。50品種のバラの花から1300株を超す野生酵母を分離することに成功し、さまざまな試験を経て、最終的に8株の野生酵母がパン作りに適していることを明らかにしました。いろいろなイベントを通して、これらの酵母を使って製造したバラ酵母パンを一般の方々に提供してきました。香り、食感、味わいにおいてこれまでにない特徴のある上質なパンができあがり、モニターの方々にも大好評でした。

製パン適性のあるバラ酵母のまとめ

<i>Torulasporea sp.</i> #994 (花園)	<i>Lachnaceae sp.</i> (A type) #1158 (杉原)	<i>Lachnaceae sp.</i> (B type) #1029 (花園)	<i>Candida sp.</i> (C type) #1289 (杉原)	<i>Candida sp.</i> (D type) #1415 (吉川)	<i>Wickerhamomyces sp.</i> (E type) #1791 (吉川)	<i>Wickerhamomyces sp.</i> (F type) #1826 (吉川)	<i>Saccharomyces cerevisiae</i> #2915 (亀川)
製パン特性のあるバラ酵母							()…発見者

しかしながら、私たちが実験室レベルで準備できる酵母の量には限界があり、必然的に製造できるパンの量も限られていました。もっと多くの方々に「福山バラの酵母」を使ったパンを提供したい、是非ともその味わい深い上質なパンを食っていただきたい、福山から全国へ世界へバラ酵母パンを普及したいとの強い思いから、大量なパン作りには必須となるパン種の製造試験に着手することにしました。この製造試験にあたっては、東京の（有）ホシノ天然酵母パン種に協力を仰ぎました。（有）ホシノ天然酵母パン種は、パン作りには有用な天然酵母を麴による日本古来の醸造法で育成し、乾燥粉末にする独特の製造技術を持しており、このパン種を使って製造したパンは古くから多くのファンを引きつけています。福山にもこのパン種を使っているパン屋さんが数多くあります。

私たちが、（有）ホシノ天然酵母パン種と共同して、バラ酵母を使ったパン種の開発を始めたのは2015年の11月です。しかしながら、福山バラの酵母をパン種に仕上げるには幾多の試練が待っていました。失敗に失敗を重ねながら、ようやく明かりが見えてきたのは酵母に冷蔵耐性（冷蔵保存しても酵母が生き残る性質）を付与することでした。これを期に、一気に「福山バラの酵母」のパン種化が進みました。最終的に、パン種に仕上げるのができたのはミスターリンカーン

という真紅のバラの品種から採取された野生の出芽酵母で、古来から発酵醸造に用いられてきたサッカロマイセス・セレビシエという酵母の仲間でした。食経験や安全性の面からも申し分ありません。

福山バラの酵母を使って（有）ホシノ天然酵母パン種で製造したパン種を「ホシノ薔薇酵母パン種」（商標登録済み）と名付けて、ようやく世に出すことができました。500gのパン種入りパック（冷蔵保存）で、販売価格は2200円＋税です。福山市御船町の（有）ぬまくま夢工房が店舗とネットで販売しています。このバラ酵母を使ったパン種の開発・製造・販売にあたっては、福山市・（有）ぬまくま夢工房・（有）ホシノ天然酵母パン種の強力な産学官の連携があつてのことです。なにより、分子生物学研究室に所属した卒研生の研究奨励金の賜です。

2019年7月2日（火）には福山市今町のコミュニティハウス・アンブレラで記者発表を行い、一週間後の7月9日（火）には東京都江東区有明の東京ビッグサイトで開催された「2019国際食品工業展」で全国へ向けのお披露目をしました。これらの様子は、多くの新聞や情報誌およびテレビやラジオで紹介されたので、ご覧になられた方もおられるでしょう。このホシノ薔薇酵母パン種はパン生地の膨張性に大いに優れており、もっちりふっくらで香りの高い上質なパンを作り出し、皆様から高い評価を得ています。

福山にはこのパン種だけを使ってさまざまなパンを製造して販売するパン屋さんも出てきました。この流れは福山市だけにとどまらず、東京や大阪などの有名パン店からの問い合わせも増えており、パンの専門誌にも掲載されています。大学が果たす地域活性化のモデルでもあり、大学ブランドの社会への発信の実例ともなるバラ酵母のパンやワインは、2024年の世界バラ会議において世界中から福山へ来られるバラの愛好家や育種家の舌を魅了することでしょう。このことを通して、福山市や福山大学がより広く社会に発信されることを願ってやみません。

生物工学科 教授 久富 泰資



ホシノ薔薇酵母パン種
(500g入りパック)



ホシノ薔薇酵母パン種の特別ブース (2019国際食品工業展：東京ビッグサイト)

福山大学 東村葡萄園

マスカット・ベリーA, 順調に生育

スクールバスが福山大学から松永駅へ向かう途中、山陽自動車道側道にあるバス停「延江入口」横を通るとき、左側前方に目を向けてください。「福山大学ワイン醸造所 VINEYARD 東村葡萄園」と書かれた大きな看板が目に入ります。福山大学ワインプロジェクトで使用する醸造用ブドウを栽培するための東村葡萄園が2019年春に開園しました。



水はけをよくする暗渠の敷設



東村葡萄園南側に立つ大きな看板

福山大学ワインプロジェクトを推進する生物工学科では、植物栽培実習や果樹栽培加工実習で1年次生と2年次生が中心となって、瀬戸ブドウ園（福山市瀬戸町）で醸造用ブドウを栽培しています。ところが瀬戸町ではイノシシなどの野生動物が出没して田畑を荒らすため、ワイン醸造に必要なブドウの確保が難しくなりました。そこで、学校法人福山大学が大学キャンパスの近くに新しくブドウ園を開設することを計画されました。東村葡萄園の土質は粘土質で水はけが悪く、ブドウ栽培に適した土壌ではありません。排水をよくするために、溝を掘りそこに通水性パイプを敷設して暗渠が設備されています。そこに4tダンプカー延べ100台分の真砂土を運び、高さ50cmまで真砂土を積み上げました。その上に、長さ50m、幅1m、高さ50cmの4本の畝が立てられました。



夏のブドウ苗木への細やかな水管理

ここに植えられたのは、マスカット・ベリーAというブドウ品種の苗木です。1本の畝に4本ずつ、12m間隔で植えました。ブドウはつる性植物で春から夏にかけてつる性の枝をグングン成長させます。放っておくと管理できなくなりますから、つるを垣根や平棚に誘引して栽培します。東村葡萄園は著者が考案した省力型平棚栽培法で栽培しています。ブドウ栽培では、芽かき・誘引・花ごしらえ・袋かけ・収穫・剪定など手間のかかる作業を行います。省力型平棚栽培では、主枝を高さ1.4mに張った鋼線に沿って伸ばし、そこから結果枝を伸ばします。作業者はこれらの作業を胸元で楽な姿勢で行うことのできるため、身体への負担が軽減されます。熟練した技術が必要とする剪定作業も、枝を一字字立立てにして単純化しているため、経験の浅い人でも簡単な講習を受講するだけで作業を行うことができることも大きな特徴です。今年2月に植えられたマスカット・ベリーAの苗木は、順調に成長して、予定通りに2方向にそれぞれ6mずつ主枝を伸ばしています。今年は果実をつけませんでした。来年から結実する果実の量を少しずつ増やし、3年後には約800kgのブドウの収穫を見込んでいます。800kgのブドウからは約800本の赤ワインを造ることができ、より多くの方々に福山大学のワインを楽しんでいただくことができそうです。

「なぜ、東村葡萄園に“マスカット・ベリーA”というブドウ品種を植えたのか！」少し説明しておきましょう。ヨーロッパで栽培されているワイン用ブドウ品種を日本で栽培することは難しいとされています。ヨーロッパと較べると日本の気候は高温・多湿で、様々な植物病が発生するためです。マスカット・ベリーAは、日本の「ブドウの父」「ワインの父」と称される川上善兵衛氏が昭和2年に「ベリー♀」と「マスカット・ハンブルグ♂」を交雑して育種した醸造用ブドウ品種で、多収性で病気に強く、日本の気候での栽培に適した品種です。福山では生食用ブドウとして広く栽培されていますが、全国的には赤ワイン用品種として一番の収穫量を誇り、各地のワイナリーで個性豊かなワインが造られています。2013年には国際ブドウ・ワイン機構に品種登録されました。わが国で作出された品種であること、福山での栽培に適していること、そして病気に強いことがマスカット・ベリーAを東村ブドウ園に植えた理由です。

ワインの研究はバイオテクノロジーの原点でもあります。生物工学科の学生は発酵タンクでブドウ果汁がブクブクと発酵する様子を見て、バイオテクノロジーを学んでいます。また、福山大学ワインプロジェクトを契機として、福山では「福山ワインフェス」「ワインオーナーズクラブ」「福塩線ワイン列車の旅」などのイベントが行われるようになっていきます。生物工学科は、ワインを福山大学ブランドの一つに育て上げるために、これからも努力していきます。

生物工学科 教授 山本 覚



ノンアルコールワインで東村葡萄園の開園を祝う

第45回 三蔵祭

学生を中心とした三蔵祭の活動

寒さが一段と厳しくなり、1年の終わりが日に日に近づきつつある今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

思い出してみれば早いもので今年の1月から動き始めましたがあっという間に時間が過ぎていったように感じます。今年の三蔵祭は45回目、さらに新元号令和に代わるということで1つの節目として三蔵祭運営委員はより一層思いを込めて準備をしました。例年よりも早く各部署の立ち上がりから前倒しのスケジュールなど部長や部員の頑張り、そして事務の方々にもご助力いただき、無事に三蔵祭を開催することができました。

土曜日には通り雨に打たれることもありましたが概ね天候には恵まれ、昨年を上回る来場者数となりました。また、吉本芸人さんによる漫才、そして吉本新喜劇さんによるミニミニ新喜劇を行いたくさんの人に足を運んでいただきまして大変盛り上がったように感じました。

最後になりましたが、各学科や各サークル、模擬店団体、地域の方々や特別企画ゲスト、事務の方々、そして三蔵祭にご協力いただきましたすべての企業の皆様のご理解、ご協力がいただけたからこそこのような成功という結果で終わるこ

とができました。書面上にはなりますが、関係者を代表して厚く御礼申し上げます。

引き続き、来年度の第46回三蔵祭を心待ちにさせていただけることを心より願っています。

第45回三蔵祭運営委員会 委員長
工学部情報工学科 3年 文田 貴俊



経済学部 国際経済学科の三蔵祭への取り組み

国際経済学科では毎年、三蔵祭で研究発表の展示を行っています。今年のテーマは、「中四国企業と私たちの国際化」



でした。私は、ブルガリア・ヴェリコタルノボ大学での1年間の留学について発表しました。ゼミの同級生や後輩たちは、地元の企業を中心に、海外展開について調べた内容を発表しました。対象となった企業は、ローツェ、北川鉄工所、八天堂等です。これらの企業には、実際に訪問して幹部の方々に取材を行いました。

初日には、『経済リポート』の岩田記者を招き、備後企業の国際化について懇談。岩田記者は、規模は小さいけれども世界に誇れる技術を持っている備後企業を取材されており、私達の未熟さを感じました。ゼミの先輩方は、姫路や宮島といった中四国の観光地での訪日外国人客へのアンケート調査について発表されていました。こちらは福山大学「里海里山研究プロジェクト」の一環とのことで、福山や尾道への外国人客を増やすにはどうしたら良いか、外国人客への実際のインタビューを踏まえた各自の意見が出ていました。次の機会があれば、私もやってみたいと思いました。

大学祭というと、イベントや模擬店が前面に出がちですが、国際経済学科の展示のような地味な活動も良いのではないかと思います。学ぶことが私たちの本業なのでから。

国際経済学科 3年 盛影 司

人間文化学部 心理学科によるお化け屋敷

心理学科2年生は、毎年恒例のお化け屋敷を行いました。今回はお化け屋敷のテーマを「殺人マンション」に決め、1ヶ月前から準備をしていました。私は三蔵祭委員でしたが、最初はうまく指示を出すことができず、みんなのやる気もそこまで出ていなかったと思います。三蔵祭前々日、私は三蔵祭委員としての責任、不安を感じていました。しかし、その日の放課後多くの人が残って作業してくれているのを見て、絶対成功させると決めました。前日も朝早くからみんなが来てくれ、自分のできる事をこなし、より良くするために意見を述べてくれました。そのおかげで準備も早く終わり、今までの心理学科2年生にはなかった団結感を感じました。

お化け屋敷がスタートすると、中ではお客さんの悲鳴が聞こえ、受付・客引きではお客さんとの会話を楽しむ事ができました。お客さんの中には、泣いている人、笑っている人、叫んでいる人など様々でしたが、2日間行列ができ、お化け屋敷が大成功したと確信しました。

お化け屋敷を作り上げるのは想像以上に大変でしたが、それ以上に最高の思い出を最高の仲間と共に作ることができた

と思います。心理学科の先輩、先生、心理学科2年生、お化け屋敷に来てくれたお客さんには感謝しかありません。ありがとうございました！！

心理学科 2年 池本 美穂



工学部 「きて・みて・さわって IT 体験」

情報工学科では、今年から「描いた柄がお魚に！バーチャル水族館」を新たに展示しました。このアクアリウムでは、透過スクリーンを使用して三層のディスプレイを構築し、それぞれの層に別々の映像を映すことで立体感を実現しています。



このシステムにより、アクアリウム内の生き物たちがスクリーン手前に向かってくると、映像的にだけでなく物理的にも近くなるため、迫

力のある作品となっています。また、小さな子供でも楽しめるようにするために、観覧者が用紙に描いた模様を餌として、生き物が食べるとその体に餌の模様が付くといったインタラクティブ要素を導入しました。映像を綺麗に投影するために、レンダリングの設定など細かい調整を三蔵祭の直前まで行い大変でしたが、三蔵祭当日は幅広い年代の方々に楽しんでいただくことができました。

さらに、プログラミング道場と「みらい工学プロジェクト」で1年生が作成したゲームの展示に加え、毎年恒例の「マウスパッド作り」でも多くの来場者に楽しんでいただくことができました。今後も多くの人に喜んでもらえるよう、情報技術を使ったコンテンツの充実を図ってまいります。

情報工学科 4年 黒木 春樹

生命工学部 「食について楽しく知ってもらおう！」

生命栄養科学科では1年生から4年生まで其々が食から来場者を楽しんでもらえる企画を実施しました。4年生は各ゼミ紹介で研究の一端を紹介、3年生は食育媒体展示、2年生は食堂にて手作りスープやジュース提供、そして私たち1年生は5グループに分かれて企画展を実施しました。豆つまみ、イントロゲーム、食事診断、体組成測定など盛りだくさんです。

私はその中で「旬の食材クイズ」を担当しました。子どもから大人まで幅広い人を楽しんでもらえるように考案しました。1日の来場者100人を目標にしていたのですが、それどころか約200人の方がクイズに参加して下さいました。あんなにたくさんの方々、子どもから大人まで関わることは滅多になく、貴重な体験となりました。笑顔を意識してコミュニケーションをとっていたので、相手も笑顔になって下さり、私も楽しくうれしい気持ちになりました。

大学祭を振り返って、私は2つのことを学びました。1つ目は、人との関わり方の大切さです。2つ目は、責任感を持って行動することの大切さです。この大学祭を通してこれ

からに生かせることが学ぶことができたと実感しています。来年の学園祭も、クラスの人たちと協力してお客様や私たち自身も楽しめるものにしたいと思います。

生命栄養科学科 1年
豊田 藍子
西原あゆみ



薬学部 幹事会発足 ～僕らの成長～

昨年12月に発足した幹事会は、薬学部三蔵祭で活動する班のサポートを目的とし、2・3年生8人で活動しています。

幹事会として、大きく3つのことを行いました。

1つ目は、4つの各班（運営班、薬局班、化学班、ゲノムアカデミア）の代表を集め、学祭に向けての話し合いの場を設けることです。昨年度まで班を超えての会議の場がなく、



足並みがそろわない場面もありましたが、統一したルールを作ることでトラブルを未然に防ぐことができました。

2つ目は、学祭担当の先生と班間の連絡窓口になり、申請書類の回収・チェックを行うことで、より学生主体の活動を実現しました。

3つ目は、学祭当日の幹事会の企画として、薬学部内のスタンプラリーを行うことで、各班の活動をより多くの人に知ってもらうとともに、各班に関するアンケートを行い、結果をフィードバックする予定です。また、学祭後、引継ぎ会を行うことで、後輩たちが活動する環境を整えられればと考えています。

この幹事会の活動を通して、人と人との繋がりや協力することの重要性を学びました。大学祭は各班の各人が主役であり、その人たちの協力がなくては成り立ちません。その他にも先生や地域の方々など、今年は本当に様々な方に助けていただいて三蔵祭を行うことが出来ました。このメンバーで活動できたことに感謝を忘れず、年々よい伝統を作れる会に成長していきたいと思えます。

薬学科 3年 堀岡 優香
3年 曾我部寛人

地域連携活動

「福山大学公開講座」について

福山大学公開講座が、福山大学と三原市中央公民館の2会場で、9月中旬から10月下旬にかけて「備後地域の記憶・変遷と将来展望～新時代の幕開け～」という統一テーマで開講されました。本講座は、福山大学教員の研究成果を地域社会に公開し、社会の人々に、生活及び職業上の専門的な知識と一般教養を高める学習機会を提供し、生涯学習の振興と文化的、産業・経済的な発展に寄与する目的で開講されています。概要としては、新元号となった令和元年度は、新しい時代の幕開けが期待されている。そこで、今年度の講座では、長きにわたり歴史的に蓄積されてきた備後地域の自然や生活様式、風土、また、それらを基盤とする多様な産業を俯瞰し、現在の我々の生活を取り巻くめまぐるしい変化や様々な

課題を認識しつつ、それに対して如何なる対策と取り組みをすべきだろうかについて、多彩な講師陣が多角的観点から新たな研究成果やトピックスを交えながらわかりやすく紹介・解説し、興味・関心を引き起こした。

テーマ及び講師は、次のとおりです。

また、閉講式において5回中4回以上の出席者に、修了証書を授与しました。会場ごとの延べ出席者数及び修了証書授与者数は、福山会場では延べ出席者数449人、修了証書授与者数66人、三原会場では延べ出席者数205人、修了証書授与者数31人でした。

来年度も、地域の方々への情報発信の場として貢献していきたいと思っております。

総務部 企画・文書課



回	福山	三原	講座名	講師
1	9/21	9/18	映像コンテンツあれこれ	人間文化学部 中嶋 健明 教授
2	9/28	9/25	備後地域のグローバル化と人材育成について	経済学部 萩野 覚 教授
3	10/ 5	10/ 2	備後地域での人生100年時代に向けて健康寿命を延ばすための健康習慣	薬学部 猿橋 裕子 准教授
4	10/12	10/ 9	何を食べたらいいの？食の安全と安心	生命工学部 菊田 安至 教授
5	10/19	10/16	地域の交通を考える	工学部 小林 正明 講師

「備後経済論」について

『備後経済論』は経済学部生が、地元企業さらに備後経済に対する理解を深めるとともに、就職活動の参考にすることを目的として、地元企業の経営者等を講師に招き、企業立ち上げの苦心談、経営理念、若い世代へのメッセージ等を熱く語りかけてもらう形式の講義です。平成15年度より開始して以来、地元企業経営者や業界団体関係者の招聘数は、180名以上に達しています。

備後経済論の担当者・世話人となって4年目を迎えることとなりましたが、多様な地域関係者の生き活きとした、熱のこもった講義から、地域活性化に対する飽くなき挑戦や妥協しない姿勢、強い責任感がひしひしと伝わってきており、そうした情熱が地域経済の醍醐味や革新性にとって重要な原動力と社会的基盤となっているように思わざるを得ません。

- 「経験することで失敗をして、失敗をすることで苦しいことがあるけれども、苦しいことの中から新しいものが、自分の中で生まれる」(株式会社トイロ・龍田社長の平成30年10月11日講義)
- 「失敗からじゃないと学べないですし、すごいプレッシャーがかかったときに、それを乗り越えられるかどうか、社員

を見ていても、どれだけ過去にとんでもない失敗をしたかが、結構、判断基準になると思います」(北川精機株式会社・内田社長の平成30年10月25日講義)

- 「会社の目的というのは「継続」することなので。会社を継続するということは、いつか世界一になりたいという夢を持ち続けることと同じことです。この夢を持ち続ける限り、いつかは世界一になれるだろうと思います」(大洋電機産業株式会社・片岡社長の平成30年11月8日講義)
- 「同じではないことを理解して、個性を伸ばし、人として成長することができる」(有限会社森谷機械・森谷社長の平成30年11月29日講義)

学生への強いメッセージは枚挙にいとまがありません。毎年度刊行されている『備後経済論講義録』は在学生だけでなく、地域の人々にとっても地域産業・地域企業を理解する、生きた良き教材となっていますので、幅広いご活用を願っています。

税務会計学科 教授 張 楓



大洋電機産業株式会社
代表取締役社長
片岡 義男

令和元年度経済学部『備後経済論』の日程

回	月日	氏名	社名	役職	事業内容
1	9月26日	張 楓	講義(はじめに)		
2	10月 3日	高田 健司	福山市商店街振興組合連合会	理事長	商店街振興事業
3	10月10日	井上 隆雄	若葉家具株式会社	代表取締役社長	家具製造販売
4	10月24日	大西 貴明	株式会社オオニシ	代表取締役社長	海産珍味、珍味、食品製造卸
5	10月31日	大瀬 一登	株式会社アベックス インターナショナル	代表取締役社長	週鮮寿司まなみの経営や食品品の製造、加工、販売及び輸出入業務
6	11月14日	松葉 寛和	松葉製作所	代表取締役	木型、iphoneケースの製作
7	11月21日	天野 文男	株式会社クラハン	代表取締役社長	水産物及び関連食品の卸売・水産加工食品の製造販売
8	11月28日	柿原 卓矢	柿原工業株式会社	取締役	樹脂製品の一貫生産 (金型、射出成形、表面処理、めっき、塗装、組立)
9	12月12日	吉川 和秋	株式会社enivrant(アエヴラン)	代表取締役社長	福山わいん工房
10	12月19日	漆川 治樹	福山観光旅行株式会社	常務取締役	観光企画
11	1月 9日	廣中登志治	有限会社アルファ企画	代表取締役社長	刺繍・ラインストーン・レーザー加工・企画
12	1月16日	松坂晃太郎	ヒロボー	代表取締役社長	プラスチック成型、ラジコンヘリの製作・販売
13	1月30日	張 楓	講義(おわりに)		

「2019 BINGO OPEN インターンシップ」について

今年度で10年目を迎えるBINGO OPEN インターンシップは、学生一人一人の可能性を伸ばす貴重な学びの機会と捉え、他大学にはないインターンシップ合同企業説明会、事前研修、事後研修、学内発表および備後4大学(福山大学、福山平成大学、尾道市立大学、福山市立大学)インターンシップ合同成果報告会を開催し、実習での気づきや学びを確かな力として、定着させる独自の研修プログラムを展開しています。

まず5月にインターンシップ合同企業説明会を大学会館で開催しました。今年度は備後4大学の学生880名、企業85社とともにこれまでにない多くの人が参加しました。企業担当者から直接、企業のことやインターンシップの内容の説明を受けたり、質問をしたりと会場は若い熱気に包まれました。

学生は、この合同企業説明会や募集要項をもとに、自身の目的に合ったインターンシップ先を探し、志望動機や、自己PR文を書く応募書類を作成し、学内選考と企業選考によりインターンシップ先の企業が決まります。今年度は延べ263名の学生が参加しました。

直前の8月の事前研修では、参加意欲の向上や参加目的の意識づけを行うために今年度は、過年度BINGO OPEN インターンシップに参加した社会人OB・OG、受入企業の方に参加いただき、企業、仕事および受入に対する思いを説明してもらいました。その他、参加中の目標設定、マナー研修をしました。そしてインターンシップ期間中には、毎日、モチベーションや目標設定の達成度の振り返りのレポートを作成しました。

参加して終了ではなく、実習後の9月に事後研修を実施し、

事前研修に引き続き、社会人の方にも参加いただき、グループワークにより、インターンシップの振り返りを行い、新たな気づきにつなげる機会としました。また10月2日～7日に学内発表を実施し、インターンシップに参加した仲間や後輩に向けて体験談や成果を披露しました。その集大成として11月30日には備後4大学によるインターンシップ合同成果報告会を大学会館で行いました。

今年度は口頭発表とポスター発表において、本学から10名がインターンシップの学び等について発表を行いました。

こうした一連のインターンシップ体験は、自分の強み、足りないもの等、自分を客観的に見つめ直す機会であり、今後の大学生活や具体的な就職を念頭においたキャリア形成を考える機会となっています。

自分未来創造室 講師 津田 将行



インターンシップ先の企業で
(クニヒロ株式会社)



インターンシップ先の企業で
(トヨタL&F広島株式会社)

「文化フォーラム」について

「文化フォーラム」は、福山大学人間文化学科の教員、学生の日頃の研究成果を地域の皆様に広く知って頂くために、2006年度から開催しています。

2019年度は、福山城築城400年記念協賛事業として、「備後の里山・里海文化1—神辺の文化と歴史」と銘打って、最近の研究成果をもとに、人間文化学科の日本史・日本文学・中国文学の三教員に加えて、広島大学古典文学の教授を招いて、神辺の文化の性格を解き明かしました。

第1回 10月5日

井伏鱒二の作品における神辺
—『鞆ノ津茶会記』を中心に—
講師 本学人間文化学科教授 青木 美保

第2回 10月19日

菅茶山と内海文化圏
講師 広島大学教育学部教授 竹村 信治

第3回 11月2日

神辺本陣の建築とその歴史
講師 本学人間文化学科講師 柳川 真由美

第4回 12月14日

儒者・菅茶山の思想と実践—儒家思想の精粹
講師 本学人間文化学科准教授 清水 洋子

第1回は、本シリーズの皮切りとして、井伏鱒二の小説『鞆ノ津茶会記』に描かれた神辺から、水野忠邦入城以前の福山市の姿を紐解きました。神辺は、戦国武将の激戦地であると同時に、「神辺学校」という教育施設があったとの記録もあり、そこにひと・ものが集散する街道特有の性格を見ました。

第2回は、新資料、讃岐の善通寺誕生院に所蔵されている「茶山先生梅花稿六十種并茶山先生戊寅遊艸」の外題をもつ写本から、茶山の、琴平の文人との交流および瀬戸内海文化圏の内にあった神辺・廉塾の姿を知ることができました。

第3回は、広島県重要文化財神辺本陣調査(受託研究、福山市主催：2017年度～2018年度)の成果に基づく新資料を踏まえて、19世紀の前半から半ばにかけて、大規模な普請が度々行われたこと、その資金繰りや、地域の職人の実態などがわかりました。

第4回は、漢詩人・菅茶山の、これまであまり語られることがなかった義倉や私塾などに専心した側面に焦点を当てつつ、茶山の論文を読み解きながら、儒者としての思想や学問的背景がそれらとどのように関わっていたのか、その実態に迫りました。

以上のように、人間文化学科は、これまで埋もれていた備後の文化を発掘・研究し、現代につなげる文化研究の拠点を目指します。

人間文化学科 教授 青木 美保



国際交流瓦版

- ◆福山ブルガリア協会主催「2019福山ばら祭り招聘事業・歓迎交流会」に富士彰夫副学長並びに早川達二国際センター長が出席。(5月17日)



(5月17日)

- ◆中国協定大学の河北大学から裴桂芬教授が来学され、本学教員と共同研究や交流会を実施。学校法人福山大学研修施設の中村寮に宿泊。(6月3日～9日)

- ◆豪・ウーロンゴン大学からMarion氏並びにRussell Woodrow氏が来学され、同大学の説明会を開催。本学学生教職員約20名が参加。(6月6日)



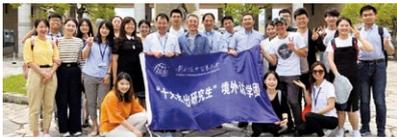
(6月6日)

- ◆国際センター留学生部主催行事『しまなみサイクリング』を開催。日本人学生5名、留学生12名、教員7名が瀬戸内の美しい自然を満喫。(6月23日)



(6月23日)

- ◆中国協定大学の対外経済貿易大学から学生15名及び教員1名が来学され、本学の学生・教職員と交流。(6月28日)



(6月28日)

- ◆ポーランドのコペルニクス大学と学術教育交流協定を締結。本学の協定大学数は27大学へ。(7月11日)

- ◆夏期語学研修及び交換留学予定の学生20名のうち15名が、松田文字学長に決意表明。(7月11日)



(7月11日)

- ◆トビタテ留学JAPAN!の研修などで協力を頂いている米国協定校のカリフォルニア州立大学サンマルコス校からスウィーニー三好順子氏が来学され、同大学の説明や米国での実体験を紹介。(7月16日)



(7月16日)

- ◆(公財)ひろしま国際センター奨学金交流会へ、李夢さん(国際経済学科/4年/中国出身)ら3名が、李森国際センター留学生部長と出席。(7月17日)



(7月17日)

- ◆来年で10周年を迎えるブルガリア協定校のソフィア大学聖クリメント・オフリドスキとのこれまでの活発な交流実績に基づき、福山大学とソフィア大学の同窓会組織「Rose Alumni」が発足。(7月19日)

- ◆刘慧儀さん(税務会計学科/2年/マレーシア出身)ら7名の留学生が、盈進中学校の「A Whole Day English」に英語ティーチングアシスタントとして参加。(7月20日)



(7月20日)

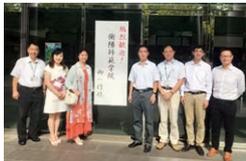
- ◆広島キワニスクラブ主催「留学生日本語スピーチコンテストin広島2019」で、朱凱月さん(経済学研究科/交換留学生/中国出身)が佳作賞(第3位)を受賞。(7月21日)



(7月21日)

- ◆中国協定校の上海師範大学で夏期集中中国語研修を実施。佐野峻介さん(国際経済学科/3年)ら3名が参加。(7月28日～8月24日)

- ◆中国の衡陽師範学院から王鵬院長等4名が来学され、学生・教職員の交流等について協議し、本学の施設を見学。(7月29日)



(7月29日)

- ◆ベトナム協定校のベトナム貿易大学で、夏期研修を実施。高淵遥さん(国際経済学科/1年)ら2名が参加。(8月12日～30日)

- ◆米国協定校のカリフォルニア大学リバーサイド校で、夏期集中英語研修及びアメリカ文化研修を実施。小島史基さん(海洋生物科学科/3年)ら9名が参加。(2週間:8月18日～9月1日, 4週間:8月18日～9月16日)



(2週間:8月18日～9月1日, 4週間:8月18日～9月16日)

- ◆早川達二国際センター長が、米国協定校のカリフォルニア大学リバーサイド校、カリフォルニア州立大学サンマルコス校及びメキシコ協定校のモンテレイ大学を訪問。今後の交流について協議。(8月29日～9月5日)



(8月29日～9月5日)

- ◆広島県主催行事「広島県・四川省友好提携35周年記念式典・レセプション」に、富士彰夫副学長が出席。(9月11日)

- ◆福山松永ライオンズクラブのご支援のもと、国際センター国際交流部と留学生部で「国際交流BBQ」を合同開催。福山松永ライオンズクラブの黒田会長及び平川幹事にもお越しいただき日本人学生、留学生及び



教職員が交流し、海外留学の情報交換や異文化交流を行った。(9月26日)

- ◆米国協定校のカリフォルニア大学リバーサイド校から、アジア地域担当ディレクターのBoe Choi氏が来学され、来年同大学との交流が30周年を迎えるにあたり、Choi氏から富士彰夫副学長に記念の盾が贈呈。(10月11日)



- ◆(公財)熊平奨学文化財団の奨学生交流会へ、余忠燕さん(経済学研究科/2年/中国出身)ら2名が、李森国際センター留学生部長と出席。(10月21日)

- ◆第45回三蔵祭で毎年恒例の『餅つき大会』にソフィア大学の留学生らも参加。(10月25日)



- ◆第45回三蔵祭で、国際センター留学生部及び福山大学孔子学院共催で『日中学生交流クイズ大会』を開催。(10月26日)



- ◆第45回三蔵祭で、国際センター留学生部主催の「留学生の日」を実施。ベトナム、ブルガリアの軽食や中国の切り絵で来場者をもてなし。(10月27日)



(10月27日)

- ◆(公財)SGH財団の奨学生採用証書授与式に、蘇靖雯さん(メディア・映像学科/3年/マレーシア出身)が出席。(10月28日)



- ◆広島県留生活躍支援センター主催行事「外国人留学生のための体験入学会」を本学で開催。広島県、岡山県の日本語学校に通う外国人留学生14名が経済学部や工学部の授業を体験。本学在籍留学生とも交流。(10月30日)



(10月30日)

- ◆中国協定校の広東技術師範大学から、潘自勉副学長他2名が来学され、松田文字学長を表敬訪問。早川達二国際センター長や許霽国際センター副センター長等と今後の交流について協議。(11月7日)



- ◆第17回広島県高校生英語スピーチコンテストを福山大学大講義室で実施。「Beyond sushi and jeans: Sharing foreign cultural norms」のテーマで県内11校から17名の高校生が英語でスピーチ。大賞は、山陽学園高等部3年の高杉未来さんが受賞。(11月9日)



学務部 国際交流課

学友会 短 信

【サッカー部】

- 4月7日～4月14日
2019年度全広島サッカー選手権大会
決勝大会兼天皇杯JFA第99回全日本
サッカー選手権大会広島県代表決定戦
出場
- 4月28日～11月10日
2019年度中国大学サッカーリーグ出場
第2位
- 6月16日～6月30日
2019年度中国大学サッカー選手権兼
総理大臣杯全日本大学サッカートー
ナメント大会中国地域予選大会出場
- 7月6日～10月19日
Iリーグ中国2019出場
- 8月21日～11月23日
第3回中国大学サッカー新人戦出場
- 12月11日～12月22日
2019年度第68回全日本大学サッカー選
手権大会出場
- 12月17日～12月22日
第3回全日本大学サッカー新人戦出場

【硬式野球部】

- 6月21日～6月23日
中国地区大学野球新人戦 準優勝
- 9月7日～10月21日
令和元年度中国六大学野球秋季リーグ
戦出場

【陸上競技部】

- 4月13日～4月21日
2019年度広島県国体強化記録会出場
- 5月17日～5月19日
第73回中国四国学生陸上競技対校選手
権大会出場
- 10月18日～10月20日
第42回中四国学生陸上競技選手権大会
男子やり投げ 優勝

【剣道部】

- 5月25日～26日
第64回西日本学生剣道選手権大会兼
第34回西日本女子学生剣道選手権大会
出場
- 6月9日
第66回中四国学生剣道選手権大会兼第
51回中四国女子学生剣道選手権大会出
場
女子個人戦 優勝
- 6月29日～6月30日
第67回全日本学生剣道選手権大会兼第
53回全日本女子学生剣道選手権大会出
場
第13回全日本女子学生剣道東西対抗出
場
- 7月14日
第13回広島県学生剣道大会
男子団体戦 優勝
- 9月8日
第66回中四国学生剣道優勝大会兼第
46回中四国女子学生剣道優勝大会出場

【柔道部】

- 5月18日
全日本ジュニア体重別選手権大会広島
県
予選会出場
- 5月25日～26日
第65回中四国学生柔道優勝大会出場

- 8月23日～8月25日
第38回中四国学生柔道体重別選手権大
会出場
- 11月23日
第64回広島県学生柔道優勝大会
男子団体戦 準優勝
男子個人戦 66kg級 3位

【弓道部】

- 5月24日～26日
第63回西日本学生弓道選手権大会出場
- 6月15日
第43回広島県学生弓道親善試合
女子個人戦 優勝 女子団体戦 優勝
- 6月29日～30日
第31回全国大学弓道選抜大会出場
- 8月14日～8月16日
第67回全日本学生弓道選手権大会出場
- 10月4日～10月6日
第65回中四国学生弓道選手権大会出場

【バスケットボール部】

- 5月11日
2019 広島県学生春リーグ出場

【少林寺拳法部】

- 4月28日
第54回少林寺拳法中四国学生大会出場

【軟式野球部】

- 5月12日～5月17日
令和元年度西日本地区軟式野球連盟春季
1部リーグ戦出場

【フットサル同好会】

- 4月21日
地域リーグ参加

【男子バレーボール部】

- 5月11日～12日
中国学連春季バレーボールリーグ出場
- 10月5日～6日
中国学連秋季バレーボールリーグ出場

【卓球部】

- 8月28日～8月31日
第70回中国学生卓球選手権秋季大会
女子シングルス 優勝
- 10月24日～10月27日
第86回全日本大学総合卓球選手権大会
出場

【薬学部音楽班】

- 4月26日
新入生歓迎ライブ

【ジャグリングサークル ピース】

- 5月11日～5月12日
スリジエレーヴ
- 5月11日～5月19日
あしなが募金（ボランティア）
- 7月13日
福山宮通り商店街 ゆかたまつり
- 10月10日
ホームグットフレンズ（ボランティア）
- 10月20日
ふくやま環境フェスタ2019

【シルクハット majic&juggle】

- 5月19日～5月20日
第52回福山ばら祭2019

【YRC（ボランティア）部】

- 4月21日
芦田川清掃
- 4月27日～4月28日
第76回尾道みなの祭り（ボランティア）
- 5月19日
第52回福山ばら祭2019
- 9月15日
第26回ゲタリニック2019
- 10月14日
芦田川清掃
- 11月3日
福山城築城400年を祝う

【管弦楽団】

- 4月3日
入学式演奏
- 10月26日
三蔵音楽祭

【吹奏楽部】

- 4月3日
入学式演奏
- 9月15日
第26回ゲタリニック2019
- 10月26日
三蔵音楽祭

【チアダンス部】

- 5月19日
第52回福山ばら祭2019
- 9月15日
第26回ゲタリニック2019
- 10月26日
三蔵祭ダンスショー

【ストリートダンス部】

- 5月10日
広島東洋カープ公式戦
初代藩主水野勝成入封
400年記念福山スペシャルデー
- 10月26日
三蔵祭ダンスショー

【演劇部】

- 4月11日～4月13日
新入生歓迎公演
- 10月26日～27日
三蔵祭公演

【学友会モノづくり倶楽部】

- 4月26日～7月31日
モノづくり教室、里山プロジェクト

【学友会執行部】

- 4月23日
リーダーズ会議
- 5月15日
春季学長杯争奪競技大会
- 5月20日～5月22日
春季献血活動実施
- 5月20日～5月24日
マナーアップキャンペーン実施
- 10月25日～10月27日
三蔵祭
- 11月18日
学友会役員選挙
- 12月7日～8日
学友会ツアー

学務部 学生課

カリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)2週間語学研修に参加!

私は、「海外に行ってみたく、外国の文化に触れてみたい」と思っていた時に、ちょうどUCR夏期語学研修生募集のポスターを大学内で見つけて、その日のうちに詳しく説明を聞き、この研修への参加を決めました。アメリカに着いてすぐはホームステイ先のホストファミリーとのコミュニケーションは簡単ではありませんでしたが、いつも私の英語をしっかりと聴いてくれて、またゆっくりと



UCRメインキャンパスのモニュメントの前で他の福大生たちと記念撮影!

喋ってくれたおかげで、最終日にはスムーズに話すことができるようになっていました。授業は、少人数制で先生やクラスメートとコミュニケーションを取りながら毎日楽しく受けられました。授業の中で一番印象深かったのは英語のディベートです。人の意見を聞いて自分の考えを伝えるのは大変でしたが、自分の意見が伝わった時は喜びもひとしおでした。大学で出会った色々な国の大学生と仲良くなったことも思い出の一つで、再開の約束をした友達もいます。また、週末に連れていってもらったカリフォルニアディズニーやハリウッドなどでは、日本との規模の違いに圧倒されました。この2週間の研修を通して、現地の人の優しさに触れながら、英語は勿論のこと、日本とは全く違うアメリカの文化を学ぶことができました。これからもっと英語力を上げて、色々な国に行って様々な文化に触れてみたいと思っています。

薬学科1年 栗下 鈴香

第86回全日本大学総合卓球選手権大会(女子シングルス)出場

この度、私は卓球の学生日本一を決める第70回中国学生卓球選手権秋季大会(10月24日~27日、京都・島津アリーナ)の女子シングルスに出場しました。私は小学生から卓球を始め、高校生のときには、インターハイや国体に出場したことがありました。今年8月に山口県であった中国大会に出場し、中国チャンピオンとなり全国大会へ出場することになりました。全国大会では、中国大会とはまた違った雰囲気や熱意を感じました。関東地区や関西地区の大学には、全国的にも有名な選手が所属するいわゆる大学の中でも強豪校であり、この全国大会にも出場していました。私の初戦の相手は激戦区である関東地区を勝ち上がった選手でしたが勝つことができましたが、残念ながら2試合目で負けてしまいました。

今回の大会で得られたことは、ラリー以前に攻撃的なサーブの重要性、3球目などの早い段階での力強く攻撃的で、精度の高いスマッシュの重要性に気づきました。今回出場することで、得られた経験や学びを今後、個人として、また団体



としてより良い成績の残せるよう、これからも頑張っていこうと思います。最後に応援してくださいました教職員の方々、後援会の方々、ならびに学友会の方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。

薬学科1年 池田 未来

知っていますか?『防災士』~福山大学から身近な防災課題を考える~

『防災士』という資格をご存じでしょうか?防災について十分な知識・技能を身に付けた人に与えられる資格です。私は元々防災に興味があり、福山大学工学部宮内教授の「地域防災基礎・応用」を受講して知識を学び、防災士の資格を取得しました。



この度は、福山市本郷町の市・尾越・立神地区をモデルに、「マイ・タイムライン」の制作を行いました。マイ・タイムラインを制作することで、災害発生

時を想定し、個人レベルでもどのような行動によって命を守ることができるかを可視化できます。私は尾越地区在住の80代男性をモデルに制作しました。過去に起きた本郷地区の災害についての講演を聞いたり、自分たちで実際に歩いたりしながら避難経路の策定を行い、そこからマイ・タイムラインを組み立て、その結果をプレゼンテーションにまとめました。

自分たちの目線でモノを見るのではなく、実際に避難を行う高齢者の立場を常に意識しながら制作しましたが、気づくことの難しい箇所もありました。しかし、自分たちのプレゼンをもとに識者の方々の間で活発な議論が交わされるなど、非常に成果のあるものを完成させることができました。私は、この経験を生かして今後も地域の防災活動に積極的に参加し、自らの防災知識をさらに深めていきたいと考えています。

国際経済学科 3年 山口 拓真

アメリカ・スポーツビジネス研修に参加！

私は9月1日から9月12日までの12日間、アメリカ・スポーツビジネス研修に参加しました。この研修ではアメリカと日本のスポーツ経済や経営戦略について学びました。

特に印象に残っていることは最終日のプレゼン発表のために2週間アメリカで情報収集をしたことです。ショッピングモールの店員の方や球団スタッフへの質問、カリフォルニアディズニーランドで観光客の人たちへのアンケート調査などをすべて英語で実施しました。

実際に英語を話しネイティブの人々の英語を聞き取ることにとっても苦戦しましたが、確実に研修前より英語力が上がったと感じています。この経験から実際に英語を話すことの大切さを実感でき、コミュニケーション能力も向上したと思っています。すべて自分たちで情報収集したからこそプレゼン発表は今までで一番達成感がありました。

私はもともと留学に興味がありましたが、実際に海外で生活していくことの不安の方が大きく「2週間くらいなら…」という気持ちでこの研修に参加しました。

普段日本で生活しているにはできないようなことも体験でき、本当に参加してよかったなと思っています。海外に少しでも興味がある方や私のように留学してみたいという気持ちが少



しでもある方は、来年是非アメリカ研修に参加することをおすすめします！

経済学科 3年 小西 明里

ラッピングバスのデザインに協力！

株式会社備後開発に勤務している福山大学卒業生の方から、メディア・映像学科の筒本教授のところに「広島県内を走るラッピングバスに描くキャラクターをデザインしてもらえないか？」との依頼がありました。私は、自分が持っている技術と知識を活かしたくて、この仕事に応募しました。5月下旬～7月下旬にかけて、株式会社備後開発のイメージ



キャラクター「アスカちゃん」のイラストを描かせていただきました。

アスカちゃんは、既存のイメージキャラクター「ローラちゃん」の妹という設定です。デザインを一から作り、様々なポーズを取ったアスカちゃんのイラストを描きました。制作中は細かいポーズの描き方などをインターネットにある画像などを参考にし、デザイン会社の方からもアドバイスをいただきながら進めました。一つのイラストを描くのに8時間以上もかかりました。もちろん、修正は何度もしていますので、実際にかかった時間はそれ以上になります。今回のお披露目会で、自分の絵がバスに貼られて（このイラストはバスに直接描かれているのではなく、イラストを印刷したフィルムを貼っています）実際に動いていることにとっても感動しました。現在おのみちバス、トモテツバス、JRバスに貼られて福山や尾道など、大学近くにも走り回っています。今後は広島市を走るバスや工事の看板などにも使用されるそうです。貴重な経験をありがとうございました。

メディア・映像学科 3年 ソ チングマン

神楽 ～海外でもその魅力を伝える～

私は、島根県江津市の大都神楽団に所属しています。

先日、国際交流基金の依頼を受け、イギリスのロンドンにて石見神楽公演を行いました（9月26日～10月1日）。公演は、カーディフ国立博物館、大英図書館、トラファルガー広場での『ジャパン祭り』と計5公演行いました。私は、島根の神話である八岐大蛇退治を題材にした石見神楽を代表する「大蛇」という演目で、八岐大蛇を退治するスサノオノミコトを演じました。

カーディフ国立博物館での公演では、地元の小学生たちが観覧に訪れていました。スサノオノミコトが大蛇に巻きつかれ劣勢にたった時には、「Go!Go!」と島根の子どもたちと同じように声援を送っていたのが印象的でした。また、大英図書館での公演やジャパン祭りでの公演でも、広場を埋め尽くす多くの観客の方々に大声援を送っていただき、ありがたい限りでした。

今回海外での石見神楽公演を経験し、石見神楽は世界に誇



れる伝統芸能だと改めて実感しました。特に、大蛇を見た時の島根とイギリスの子どもたちの反応が同じだったことには驚きを覚えたと同時に、石見神楽の素晴らしさは海外にも通じるのだと感動しました。言葉が通じないなどのハンデがあっても、それを超越する魅力が石見神楽にはあります。その石見神楽をこれからも伝え、守っていききたいと思います。

人間文化学科 4年
増谷 玲佑

ドローンプログラミング教室の開催に学生が奮闘!

9月23日秋分の日には福山市ものづくり交流館にて、一般社団法人 瀬戸内ドローン推進協議会 と Npo法人ひとまちスタジオ のみなさんのご協力を得て「せとうち空人 第1回 ドローンプログラミング教室」を企画開催しました。



このイベントにスマートシステム学科の3年生7名が講師として参加し、Scratchを使ったビジュアルプログラミングでドローンの自

動制御法をレクチャーしました。今回のプログラミング教室では「ドローンで橋の点検をしよう!」と言うミッションを計画し、これは、指示された点検箇所から離陸位置までの経路を設計し、その経路の高度、距離を計測しプログラムに入力、画像撮影で橋梁点検を実行するというものです。カメラはドローンの前方に実装されていますので、ドローンの姿勢や飛行経路を調整し、橋梁に回り込んで飛行しながら、様々な角度から画像を撮影します。当日は1回10組90分の講座を3回行いました。最初の回は戸惑う場面があり時間超過をしてしまいましたが、インターバルの間に内容構成を修正して2回目は概ね時間内に収める事ができました。なかなか手強い課題でしたが、3回目の夕方の部で遂にミッションを完全にクリアする選手も現れ、会場から大きな歓声が沸き起こりました。参加していただいた皆様のご理解とご協力のもとに無事終える事ができました。

スマートシステム学科 3年 久保 跳空

びんご建築女子で「夏休みこども建築模型教室」を開催 —建築学科女子学生の地域貢献活動—

2019年8月6日、工学部建築学科の女子学生グループ「びんご建築女子」が夏休みこども建築模型教室を開催しました。これは、女子学生たちが自主的に行う地域貢献活動で、今年で3年目になります。この模型講座は、びんご建築女子がスタートして2年目の2016年にボランティア活動をやりたいという話し合いから始まりました。自分たちの「建築」という専門を活かして何か地域の子どもたちに提供できることはないか、と話し合う中で「小学生のときに住宅の模型とか作ってたかよかったよね」という意見がでました。そして、小学生でも簡単に作れるオリジナルの模型キットを何度も試作して完成させました。2017年に初めて開催してからは毎年、先輩たちのつくった模型キットを使って後輩たちが模型教室を開催するようになっています。

小学生一人に一人の女子学生がつき、二人で話し合いな

がら1日かけて模型をつくります。私たちは子どもたちの考えを聞き出し、アドバイスしたり、手伝ったりというやり取りをして、よい住宅模型ができあがります。夕方の終了時にはみんな満足そうな顔でした。

今回私はこども模型教室のリーダーとして周りのみんなに指示し、まとめることの大変さを学びました。みんなの協力のおかげで子供たちの笑顔や真剣に課題に取り組む姿を見ることができました。

建築学科3年 山根 詩菜



ラオス研修にリーダーとして参加

この12月、2回目の開催となるラオス研修に参加します。研修プログラムとしては、ラム酒醸造体験、藍染体験、ラオス国立大学農学部との交流会、JICAの説明会などが予定されています。また、現地の小学生に日本から靴、絵本を提供させてもらい、大学生交流では、英語で自己紹介に挑戦します。



ラオス研修に参加しようとしたのは、以前海外の大学を訪問した際に、英語を学ぶモチベーションになったからです。今でも、現地の大学生と交流が続いており、そのような関係を増やしたいため参加しようと思いました。今回研修するのは、ラオス人民民主主義共和国の首都ビエンチャン。東南アジアで唯一海がなく、母なる川、メコン川が流れ農業が盛んです。ラオディは、日本人5人が東南アジアのラオスに立ち上げたクラフトラム酒の蒸留、製造をしている会社であり、地下水と無農薬サトウキビを使い、焦げ香がつかない減圧蒸留により、サトウキビ本来のポテンシャルを表現する、というポリシーは創設当初から変わりません。

自分自身のコントロールだけでなく、リーダーとして周りのコントロールを担っていかなければならないため、常に誰かに見られているという意識を持ち、事前準備、渡航後でもみんなが楽しめるよう行動したいです。特に、大学訪問が楽しみなので福山大学と比較しながら、交流を深めて行きたいです。

生物工学科 3年 伊藤 天地

「夏休み子どもお料理教室で栄養教育を実施」

“食から地域に貢献する”ことをめざしている生命栄養科学科「食と健康のひろば ローズスクエア」の活動の一つとして、8月29日に「夏休み子どもお料理教室」を開催しました。テーマは「じぶんでつくるよ！おひるごはん」，小学生の低学年を対象に実施しました。福山大学に隣接する東村小学校2年生と3年生の児童に参加していただき、一緒に調理実習に取り組みました。

最初に、子どもたちが安全に楽しく調理できるように、調理中の注意点を説明します。どのように話せば子どもたちに分かりやすく伝わるかを考え、大きなイラストの資料を作成して練習したり、包丁の使い方のデモンストレーションを行うなど、目で見て伝わるように工夫を凝らしました。

メニューは「夏野菜スパゲッティ、ミモザサラダ、ぶどうゼリー」です。児童と私たち大学生のマンツーマンで調理を進め、私たちは全力でサポートし、立派に完成しました！皆で美味しく会食し、最後には、学んだことを振り返る食育クイズも行いました。

調理中の子どもたちの一生懸命な様子や、美味しそうに食べる姿を見て、やりがいを感じました。同時に、分かりやす

く伝えることの難しさや大切さを学びました。私たちは将来管理栄養士として地域に貢献して行く際に、この教室での経験を今後に生かしていきたいと思っています。

生命栄養科学科 4年 里村 優香



学会発表でベストポスター賞を受賞！



私の所属する製剤物理化学研究室では、主に新規がん治療法であるホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) に対する薬剤開発研究を行なっています。BNCTは正常細胞を損傷することがないため、抗がん剤治療などと比較すると、極めて副作用が少なく、高いQOL (生活の質) が得られるがん治療法です。

BNCTではホウ素を含むアミノ酸 (BPA) 製剤を用います。しかしながら、BPAは溶解性に乏しいため、実際のBNCTで

患者さんは1リットル以上の点滴を受けなければならない、これは患者さんにとって大きな負担です。そこで私は、BPAの溶解度の向上を目的として、新たな製剤化プロセスの開発に取り組んでいます。

薬学部は講義や実習も多く、研究に費やせる時間は限られていますが、その中でも私は研究に集中して取り組むとともに、日頃の講義においても自らの研究に役立てないか常に考えています。

これらの意識や日夜重ねた努力から、9月に開催された第16回日本中性子捕捉療法学会では、これまでの研究成果に対してベストポスター賞を頂くことができました(学長室ブログ <https://www.fukuyama-u.com/blog/17481/>)。

本研究は特許出願中であり、さらに研究をスピードアップさせるべく、地元企業の森田薬品工業と共同研究を始めています。我々は、少しでも早く患者さんのもとへ新技術を届けたいという想いで、日々研究に励んでいます。

薬学科 4年 石原 和樹

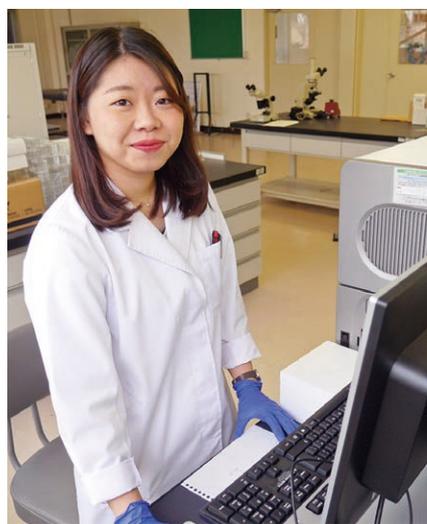
『漢方薬の科学的解明に挑戦』

漢方薬は、同じ病名でも個人差により有効な人 (レスポナー) と無効な人 (ノンレスポナー) が存在するため、治療ガイドラインである「証」に基づき適切な処方を見極める必要があります。私たちは証と腸内細菌の関連性に着目し、食餌の違いによる腸内細菌叢の変化が漢方薬の薬効発現に影響を与えることを英国科学誌Scientific Reportsに報告しています。腸内細菌叢の乱れは、消化器疾患だけでなく、アレルギー疾患、生活習慣病ならびに精神疾患など様々な疾患の発症に寄与することから、漢方薬が腸内細菌叢の多様性や機能に変化を与えることで様々な疾患や症状に対応できると考えています。

私は幼い頃から漢方薬に触れる機会があり興味があったので、漢方薬の科学的エビデンスを明らかにしたいと考え、大学院進学を決意しました。現在私は、腸内細菌の視点から炎症性腸疾患に対する漢方薬の有効性について研究をしています。漢方薬は未科学的な領域のため苦勞する時もありますが、新たな現象を自分の目で確かめることが楽しく毎日研究に励んでいます。今年も和漢医薬学会などで2回発表し、多くの

先生方からご意見をいただくことで新たな着目点に気付くことができ、とても良い刺激になります。これからも経験を積み、いつかの研究が困っている患者の助けになればと思っています。

医療薬学専攻 1年
高原 千穂



後援会情報 福山大学後援会役員会(理事会)開催される!

三蔵祭(大学祭)期間中の10月26日(土)の午後1時30分から、福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。森静会長の挨拶に続いて、会長・副会長・監事・理事の紹介を行い、9月初旬に全国16会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。なお、令和元年度理事から副会長が新たに選出されました。

総務部 庶務課



入試広報室から

◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を6月3日(月)～7日(金)及び6月27日(木)の計6日間、中国・四国・九州・沖縄の11会場で開催しました。本学会場では大学参観を兼ねた入試説明会を実施し、参加教員の事前希望で因島キャンパス、各大学の施設・設備を見学後、学校法人福山大学宮地茂記念館で両大学の入試説明会を行いました。参加者は、計15府県96校101名でした。

◆進学相談会(業者主催)

業者主催の進学相談会において、本年度は中国・四国・九州・沖縄の23都市49会場で高校生・保護者・教員の進学相談に応じました。

◆高等学校 生徒・教員の本学訪問

高等学校の上級学校訪問を受け入れております。福山大学への訪問は8校377名です。(11月末現在)。

◆2019 Open Campus(見学会・体験入学会)

毎年恒例のOpen Campusを開催しました。参加者数は、見学会:第1回(6/29) 高校生226名・保護者151名、第2回(9/14)高校生191名・保護者144名、体験入学会:第1回(7/14) 高校生304名・保護者251名、第2回(8/18) 高校生569名・保護者414名でした。

*春のOpen Campusを、令和2年3月14日(土)に開催します。

令和2年度 前期入試A日程・大学入試センター試験利用入試(前期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和元年1月6日(月)～1月25日(土) 消印有効	
試験日	令和元年1月31日(金)～2月3日(月) ※試験日自由選択制 (大学入試センター試験利用入試は、個別学力試験は課しません。)	
合格発表日	令和元年2月8日(土)	
試験地	【1/31～2/3】本学・福山(宮地茂記念館)・広島・山口・福岡・岡山 【1/31】鳥取・浜田・宮崎 【2/1】米子・大分 【2/2】静岡・京都・熊本 【2/3】名古屋・神戸・佐賀 【1/31・2/1】東京・大阪・松山・高知・鹿児島 【2/2・2/3】松江・高松・今治・小倉	

令和2年度 前期入試B日程

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和2年2月5日(水)～2月14日(金) 消印有効	
試験日	令和2年2月19日(水)	
合格発表日	令和2年2月22日(土)	
試験地	本学・福山(宮地茂記念館)・広島・岡山	

令和2年度 後期入試・大学入試センター試験利用入試(後期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和2年2月25日(火)～3月3日(火) 消印有効(センター利用入試は必着)	
試験日	令和2年3月7日(土) (大学入試センター試験利用入試は、個別学力試験は課しません。)	
合格発表日	令和2年3月11日(水)	
試験地	本学・福山(宮地茂記念館)・広島・福岡・岡山・大阪	

◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除きます)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

◇入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置について◇

福山大学では、地震・豪雨等により災害救助法が適用された地域において被災された方に対して、申請に基づき、本学入学試験受験生に対する入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置を行っております。詳細については、入試広報室までお問い合わせいただくか、ホームページをご確認ください。

編集後記

学報第162号では、まず4件のトピックスと三蔵祭、各種地域連携活動を掲載しました。三蔵祭では様々なイベントが開催され、その中で頑張った学生の記事を掲載することができました。また「頑張る福大生」のコーナーでも、学内外で活躍する学生をたくさん紹介することができました。福大生のパワー全開の様子を届けることができたかと思えます。今後も本学の様子をたくさん、そしてわかりやすく伝えていきたいと思えます。

発行 福山大学

編集 福山大学広報委員会

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>